

第5章 現職教育

1 学校研究

(1) 研究主題

学びの自己調整～学びをアップデートする力の育成を目指して～

(2) 主題設定理由

本校は令和4年度から、表現力の育成を重視した取り組みを継続し、昨年度は「自ら考え、共に学ぶ生徒の育成 ～考えを適切に表現する活動を通して～」を研究主題として、①適切な表現にするための、話し合いの「視点を明示」すること、②「表現に必要な内容を生徒と確認」し、表現に不足や曖昧さがあった場合は問い返しを行うこととの2つを重点として取り組んだ。実践を進めていく中で、意見を発表することへの抵抗感は少なくなったが、検証問題の結果などからは、「表現力」で研究を続けることへの限界もあった。

そこで今年度は、これからの時代に求められる資質・能力である下記の3つの力を育むために、自らの学びを見通し、学習を進め、振り返りを通して学びの価値を自ら見出し、次の学びにフィードバックさせていく「学びの自己調整力」に重点をおいた取り組みを実践することとした。

【求められる力】

- ・「知識及び技能」（何を知っているか、何ができるか）
- ・「思考力・判断力・表現力等」（知っていることをどう使うか）
- ・「学びに向かう力・人間性等」（どのように社会や世界とかわかってくるか）

(3) 研究内容

・曖昧で不確かな VUCA 時代を生きていくために、生徒自身が自らの視野を養い、振り返ることができる力を身につけることが求められている。そのための見通し・行動・振り返り（AAR）サイクルの学習プロセスの反復が有効である。AAR サイクルによって学習者が見通しをもって学習に臨み、振り返り、次の必要な行動につなげることを継続していくことで、自らの考えを改善していく力を身につけられると考えられる。

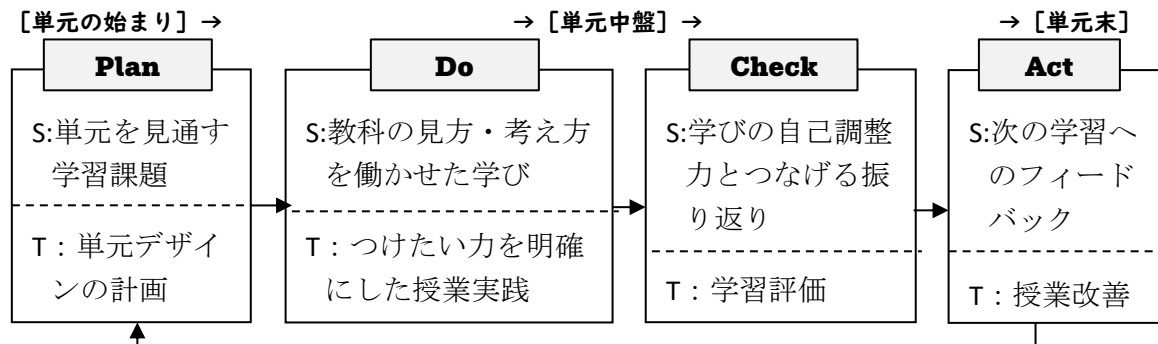
前期プランでは、AAR サイクルのうち、「振り返り（Reflection）」に重点を置く。求める振り返りとして、「その単元で育成する資質・能力が身についている」ことの他に「単元や教科を越えて、自己の学びを深める／広げることができている」ことを明示し、学びの前後での自己の変容を意識的に捉えさせ、次の学習にフィードバックさせる経験を継続させる。

(4) 具体的な取組

- ① 学びの意味を持たせる振り返り：AAR サイクルの振り返り（学習後）段階の授業改善
 - ・振り返り（リフレクション）の際に視点を持たせ、学びの意義を意識させる。
視点の例：単元をつなげる、他教科とつなげる、身近な生活体験とつなげる
自己のこれからの行動とつなげる、既知の内容と比較する など
 - ・学びの自己調整力の育成を意識し、次の見通しの際にフィードバックさせる。
- ② 基盤づくり：安心・安全な学習環境づくり
 - ・学習規律の徹底（着ベルの習慣化、教室の整理・整頓、話し合いでの傾聴姿勢）
 - ・生徒会活動や学校行事での学年間交流（学年を越えた意見交流と認め合い）

(5) 研究の重点資料

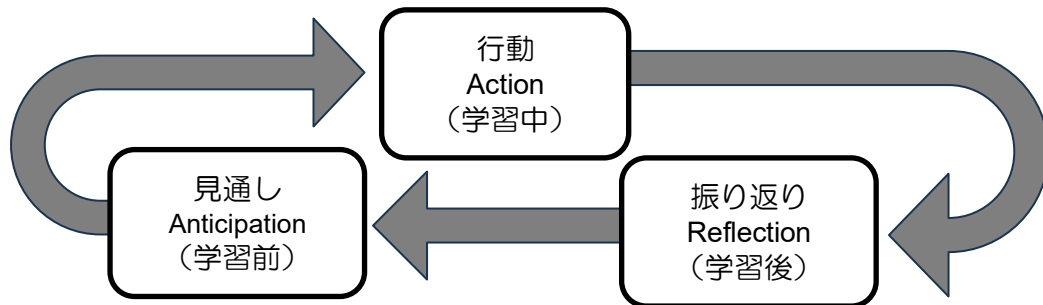
① 教科の見方・考え方を働かせるための単元デザインのイメージ



※Sは生徒の活動，Tは教師の活動

② 学びの自己調整力の育成を目指す AAR サイクル

- ・学習前は見通しに沿って学習を進める。
- ・予見からのズレや変化に対応しながら学習を進める。
- ・学習方法の自己調整を行い、集中力やモチベーションを維持する。



- ・目標を設定したり、課題に対する予想を立てたりする。
- ・どのように学習を進めるか見通しを持つ。
- ・学びの意義を見出し、モチベーションを高める。
- ・自己の学びを客観的に評価する。
- ・次の学習へとつながる疑問や予測をもつ。
- ・これからの自分がどうすればよいか考える。

- **学習前（見通し）：**課題を始める前に予想や見通しをもって準備する段階
課題、見通し（ゴール、プロセス）、活用する知識（資質、能力）などを明らかにする。活動の目的や方向性を自覚し、学習に対する動機付けを行う。
- **学習中（行動）：**集中力などを自己管理し、方法を工夫しながら、計画を実行する段階
確かな学びの実現に向けて、子供が学習方略を駆使できるようにしたり、自ら学ぶことができる学習環境を習熟度、興味・関心、学習方略、認知特性に応じて整えたりする。
- **学習後（振り返り）：**学びの成果を振り返り、次の学習につなげていく段階
学習後の振り返り、目標達成度の評価をおこない原因帰属（なぜできたか/できなかったか）をおこなう、次の「見通し」にフィードバックする。

③ 生徒指導の実践上の4つの視点

- ◇ 自己存在感の感受の促進
：自分の良さや可能性を認識し、自己の存在への肯定感を持つ。
- ◇ 共感的な人間関係の育成
：友達や教師とのかかわりを通じて、他者との信頼関係をはぐくむ力を身につける。
- ◇ 自己決定の場の提供
：生徒が自分で決定し、行動することで、納得して取り組む経験を積み重ねる。
- ◇ 安心・安全な風土の醸成
：物理的・心理的に安全で、安心して自己表現できる学級や学校環境を整備する。

(6) 年間指導計画

	月	内容	研究授業等
1 学 期	4 月	➤ 研究推進委員会 ➤ 校内研修会① ・研究計画の共通理解 ・学力向上ロードマップ，前期プランの共通理解 ➤ 学習集会 ➤ 前期学力向上プラン・ロードマップの作成・提出 ➤ 全国学力・学習状況調査	模擬授業 研究授業
	5 月	➤ 学習アンケートの実施 ➤ 校内研修会② ・指導案様式，授業整理会の流れの確認 ➤ 中間テストの実施→検証問題分析	
	6 月	➤ 計画訪問 A ➤ 校内研修③ ・計画訪問の振り返り ・研究体制と方向性の確認	
	7 月	➤ 期末テストの実施→検証問題分析 ➤ 校内研修④ ・前期学力向上プランの追加・修正の確認→提出 ・前期学力向上ロードマップ検証 ➤ 生徒アンケート，教員アンケートの実施	
	8 月	➤ 全国学力・学習状況調査の分析 ➤ 研究推進委員会 ➤ 中期学力向上プランの作成	
2 学 期	9 月	➤ 校内研修⑤ ・中期学力向上プランの確認	研究授業 模擬授業 研究授業
	10 月	➤ 中間テストの実施→検証問題分析	
	11 月	➤ 計画訪問 B ➤ 校内研修⑥ ・計画訪問の振り返り ・研究体制と方向性の確認	
	12 月	➤ 評価問題の実施 ➤ 期末テスト実施→検証問題分析 ➤ 校内研修⑦ ・中期学力向上ロードマップの検証 ・中期学力向上プランの追加・修正の確認→提出 ➤ 生徒アンケート，教員アンケートの実施 ➤ 後期学力向上プランの作成→提出	
3 学 期	1 月	➤ 校内研修⑧ ・後期学力向上プランの共通理解	研究授業
	2 月	➤ 研究推進委員会	
	3 月	➤ 期末テスト実施→検証問題分析 ➤ 生徒アンケート，教員アンケートの実施 ➤ 校内研修⑨ ・学力向上ロードマップの検証 ・後期学力向上プランの追加・修正の確認→提出 ➤ 振り返りと管理運営計画の見直し ➤ 研究推進委員会	